



板橋区景観賞
受賞

赤塚氷川神社

「長い参道と鳥居が形成するまちの骨格」

戦国期に赤塚郷を領した千葉自胤（よりのたね）が、長禄元年（1457）に大宮氷川神社から分霊を勧請したとされる上赤塚村の鎮守。

一の鳥居から続く約 200m の参道には、樺の大木や桜、銀杏の木々が立ち並び、二の鳥居脇には明治初年に造られた富士塚があり、塚を登ると赤塚の高台からの眺望が開ける。また境内本社西側には木曾御嶽塚があり、参道並木・富士塚と共に板橋区の文化財に指定されている。

長年にわたり、境内の環境を維持してきており、参道の並木、富士塚等継続的に良好な景観の形成に寄与している。

境内や参道内に植えられている樹木は、区の保存樹木に指定されている樹木も多く、長年にわたり保全し、うるおいのある景観を形成している。

都市空間の中で、憩いやすらぎのスペースとして継続されていることは地域住民や都市景観にとって貴重なことである。